

福祉の職場で働く人を紹介し、仕事や人の魅力を伝えます。
今回登場するのは、入社3年目の日下さん。
やりがいや今後の抱負について聞きました。

＊母子生活支援施設 だからできること

母子生活支援施設を知ったのは大学生のときです。母親と子ども両方の支援ができることに魅力を感じ、実習先に希望。実習生の前ではわんぱくな子どもが、母親の前ではしっかりする、その変化に興味をもち、家庭でのようすをもっと知りたいと母子生活支援施設での就職を考えるようになった。

現在は主に家計改善、家事、就労などの生活全般を支援しています。他にも、施設全体の行事企画も担当。この春には施設を退所された利用者さんも招き、「さくらまつり」を開催しました。退所後も独りにしない、継続的な交流を大切にしています。

＊退所後の生活を見据えて

施設にはDVや障がいなどさまざまなお悩みを抱える方が入所されています。支援する中で自分の言葉がまっすぐ届かないなど、利用者さんとの関わり方にはまだ難しさを感じることもあります。一人ひとりの背景や課題を知ろうとし、その人に応じた伝え方を意識することで、良好な関係が築いていけると感じています。

ます。

退所後の自立した生活を見据えた支援をすることが多く、やりがいをすぐに感じられるとは限りません。それでも、自分の言葉がいつか利用者さんの役に立つことを願って、日々奮闘しています。

＊頼ってもらえる職員をめざして

業務で悩むこともあります。が、話しやすい職場の風土があり、先輩とは仕事の相談からプライベートの話までできる関係です。また、休暇が取りやすい環境で、休日は旅行やドライブなどアクティブに過ごし、リフレッシュしています。楽しく過ごした次の日からは、また仕事を頑張ろうと思えます。

これからも、利用者さんからどんな些細な困りごとでも頼ってもらえるような職員をめざしていきたいです。

社会福祉法人 四天王寺福祉事業団
母子生活支援施設 日下 ひなたさん
四天王寺悲田太子乃園



地域で活躍する

民生委員・ 児童委員さん

(NO.53)



泉大津市
民生委員 児童委員
畑村 千代美さん
(民生委員・児童委員歴27年)

このコラムでは、地域で活躍する民生委員・児童委員さんにスポットを当て、その方の思いを紹介します。
今回は、副会長の畑村さんにインタビュー。活動で大切にしていること、今後の抱負について聞きました。

●家族と一緒に地域福祉活動

家族が自治会長やPTA、ライオンズクラブ会員として地域活動に携わってきたこともあり、前任者から声がかかりました。現在は市民児協の副会長を担うほか、6年前からは地区福祉委員としても活動しています。

●誰も取りこぼさないために

泉大津市では、登録したひとり暮らし高齢者宅を民生委員が訪問する「すこやか訪問」という事業があります。

行政からの案内ということもあり安心して登録できる一方、申請には書類の返送などの手続きがいるため、登録申請が難しい人いるのではと懸念しています。そういった人を取りこぼさないしくみを、行政や社協と一緒に考えていきたいです。

●小さな気づきからはじまった支援の輪

近所の新聞販売店の人から「いつも新聞代を持ってきてくれていたひとり暮らしの方が最近来なくなった。心配になり集金に行くと、通帳がないと話しており、ようすがおかしい」と相談がありました。地区担当のCSWに連絡すると早速CSWが自宅を訪問。認知症の兆候があるとわかりました。息子さんに連絡し、CSWと必要な支援につなげることができました。

●これからの地域福祉の担い手

私が委嘱を受けた当時は、60歳で定年退職した人が民生委員になることが多かったのですが、近年は70歳近くまで働く人も増えてきたので、地域活動をはじめめる年齢があがっています。私自身今期で退任が決まっているので、後任の方への引継ぎをしつつ、地域の行事により積極的に参加していきたいです。

Q 質問数珠つなぎ

Vol.52 原田さんから質問

民生委員の受け入れを拒否される方にはどういった接し方をしていますか？

A 畑村さんの回答

「本人と親しくお話できるようにする」ことが一番。なんでもざっくばらんに言うタイプで、それが気さくに話せる理由なのかも。